

國學院大學學術情報リポジトリ

[研究ノート]

格助詞性複合辞丁寧形「に対しまして(は)」の係り先となる述語について：『分類語彙表』を利用して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 丁, 文静 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000874

[研究ノート]

格助詞性複合辞丁寧形「に対しまして(は)」の 係り先となる述語について —『分類語彙表』を利用して—

丁文靜

【キーワード】 格助詞性複合辞丁寧形 「に対しまして(は)」 係り先となる述語 国会会議録
分類語彙表

1. はじめに

学会の質疑応答のような場面では、発表者、質問者ともに、しばしば格助詞性複合辞を使用する。一般的には、複合格助詞の普通形と丁寧形の違いは、丁寧さの差、もしくは、使用場面の違いで説明されるが、同じような改まった場面で丁寧形と普通形が用いられる場合、それぞれ係り先となる述語の出現（意味）傾向に違いはないのだろうか。また、「に対しまして」のような形式は、日本語母語話者は、係り先となる述語の選択、複合格助詞に後続する助詞「は」の必要性の有無を特に深く考えずに使用できる。しかし、中国などの漢字圏の学習者は、「対」という漢字から、「対比する」「対立する」という対抗の意味として捉える傾向があるため、複合格助詞「に対して(は)」「に対しまして(は)」の後ろにくる述語との対応を感覚的に理解することは難しい。学習者にとって「は」の有無はさらに判断が難しい問題となる。

学習者がこれらを使おうとする際に、実際に複合格助詞の後ろに、どのような係り先となる述語が来る傾向があるかをある程度把握できれば、複合格助詞を産出するのに役に立つと考える。本稿では、BCCWJから抽出した複合格助詞「に対しまして」と「に対しましては」の用例を用い、係り先となる述語の特徴、意味と出現傾向を検討した。

2. 先行研究と課題

2.1 「に対して」の意味的特徴・用法に関する先行研究

「に対して」に関する研究は、これまで「に対して」または「に対する」を中心に進められてきた。「に対して」の意味用法について、森田・松木（1989）は以下のように記述している。

- I. にくへ>対し(て)」は、動作や感情が向けられる対象を指示する機能を果たす。動詞「対する」の“他のものに向かう、応じる”意を引きつぐため、目標を示すといった方向性や、相対する人物・事物への反作用性などが示唆されることが多い。（森田・松木（1989）p. 9）

- (1) 刺激に対し感応性がある。(森田・松木 (1989) p. 9)
 - (2) その事件の後、息子に対しては、心が傷つかないようにと、ユダヤ人の迫害の歴史など説明して聞かせたのですが… (森田・松木 (1989) p. 9)
- II. 方向性・反作用性があるところから、対象より少し離れた地点、または相対する地点で対象を捉える意識があり、対象を深く掘り下げるのではなく、対象を受け手として何らかの物理的・心理的作用を及ぼすことを意図している。そのため、「反抗する」「反発する」「抵抗する」のような相手との対立関係を表す語とも共起しやすい。(森田・松木 (1989) p. 10)
- (3) 警官に対して抵抗する。(森田・松木 (1989) p. 10)

2.2 複合助詞に後接する「は」の有無に関する先行研究

「は」の有無について、三枝 (2008) は、「学習者にとっては、複合助詞を使いこなすことがすでに難しく、そこに「は」が必要とされるかどうかまでは考えが及びにくいだろう」とし、「日本語の教科書類の説明を見ても、そこまで言及しているものを見かけない」と指摘している。その上で、三枝 (2008) は、「は」がつく複合助詞とつかない複合助詞を対象に調査を行っている。三枝の主な論点は以下のようなものである。

- I. 複合助詞には「は」がつき得るものと、つかないのがある。その違いは、前者が、文中で格関係を担う点にある。
- II. 「について」「に関して」「に対して」「にあたって」「において」「にとって」等は「は」がつき得るものである。その理由は、格関係を担い得るために取り立てることが可能となるからである。

2.3 係り先となる述語に注目する先行研究

坂井 (1992) では、共起する動詞の意味的特徴という観点から、「に対して」と「について」を考察している。「に対して」は、行為者の、対象物への一定の態度、感情 (もしくはそれを表す言語・思考活動) を表す動詞 (形容詞、形容動詞) と共起しやすいとされる。

佐藤 (1989) は「に対して」の係り先として、「用例調査の結果、単独の語より連語のほうが、単独の語では和語よりも漢語の方が現れやすい」と述べている。

真仁田 (2007) は、「に対して」は、「格助詞ほど緊密に動詞と結び付いておらず、述語との間が修飾語によって隔てられていると、時にその不自然さが弱まる」と述べている。例えば、「彼女に対して」のすぐ後に「恨む」がある下記(4)は不自然であるが (「彼女を」が自然)、動詞がやや離れている(5)では不自然さが弱まる、とされる。

- (4) 彼は彼女に対して恨んだのだった。(真仁田 (2007) から引用)

(5) かくも自分を苦しめることのできる、情なき人に対して、源氏は身悶えして怨み奉るのであった。(田辺聖子『新源氏物語』,真仁田(2007)から引用)

また、真仁田(2007)は、格助詞は前項Aと後項Bの動詞や形容詞との関係が固定的なので係り先が明瞭であるのに対して、「Aに対してB」は、以下の例(8)(9)のように、Bが時には長大な句となり、Aの係り先が確定しにくいとも述べている。

(6) 日本が最近になってからでっちあげた邪悪な指導(フェーラー)観念に対して、我々の最も猛烈な攻撃の鋒先を向けるべきあらゆる理由が存在する。(ルス・ベネディクト『菊と刀』

真仁田(2007)から引用)

(7) (おさんの義理は)まず自分の願いをきき入れてくれた小春にたいして、小春が誤解されたまま死ぬということに耐えられない「女同士の義理」であったし、・・・(源了圓『義理と人情』真仁田(2007)から引用)

そこで、真仁田(2007)は、係り先が明瞭な、「Aに対してB」の装定(連体修飾)用法「Aに対するB」を調査対象とし、『分類語彙表-増補改訂版』の意味分類に従い、Bを分類し、「Aに対するB」の典型的な用法について調査している。その結果、「対する(名詞)」という表現の名詞の意味としては、「1.30心」「1.36待遇」「1.31言語」「1.35交わり」「1.34行為」のような語群が最も使われると述べている。このように、真仁田(2007)では、「に対して」の後ろに長々と文が伸びていくため、はっきりと係り先を確定できない恐れがあると述べ、装定の場合の被修飾語に注目し、共起する述語表現の傾向を明らかにしている。

2.4 複合格助詞の普通形と丁寧形の比較に関する先行研究

本多(2017)は、複合格助詞の普通形と丁寧形を比較している。調査の結果、「丁寧形は普通形より係り先までの文節数が多い、多様な内容を表すのに丁寧形がより用いられる」ということを明らかにしている。つまり「丁寧形は普通形よりも遠くに係る」ことを示している。また、丁寧形は普通形よりも「～ては」の形をとる傾向があると述べている。

2.5 残る課題

従来の先行研究はさまざまな知見を示しているが、以下の3つの課題が残されている。

1点目は、格助詞性複合辞普通形「に対して」を取り上げ、意味用法、分類について考察した研究は多数見られるが、格助詞性複合辞丁寧形「にしまして」に注目した研究は本多(2017)が一部を扱った以外にはないということである。

2点目は、格助詞性複合辞普通形と丁寧形の係り先の述語の使用傾向について言及した研究はあるが、具体的にどのような述語が後続しているか、また、後続している述語の特徴、意味傾向の分析という点が残されている。

3点目として、格助詞性複合辞「～て」「～ては」は、係り先となる述語との距離に関する違いという視点から考察した研究は存在するが、「は」の付加により、複合格助詞丁寧形の係り先となるそれぞれの述語の内容、特徴についてはさらに検討する余地があると考えられる。本研究は、格助詞性複合辞「に対しまして」「に対しましては」に着目し、これらの課題の解決を目指した。

3 調査方法

本稿では、まず、BCCWJの「国会会議録¹」から複合辞丁寧形「に対しまして(は)」を抽出した。その上で、ランダムに200例を抽出し、国立国語研究所編『分類語彙表一増補改訂版』(2004)(以下、『分類語彙表』)の意味分類に従い分類し、「に対しまして」と「に対しましては」の係り先である述語にどのような内容が見られるのかを検証した。

『分類語彙表』では、大分類として、①名称を表す語で、名詞の仲間一用の類、②存在・活動を叙述する語で、動詞の仲間一用の類、③状態を叙述する語で、形容詞・形容動詞・副詞・連体詞の仲間一相の類があり、また一部の副詞、接続詞、感動詞など①～③に分類しきれないものを④その他の語という4つの類に分けている。

また、『分類語彙表』は、「1.3131²」のように類を整数位に置いて小数点以下4けたの『分類番号』を用い、それぞれの分類項目の体系的位置付けを示している。

例えば「1.3131」の場合、左から順番に「1」は「類」の「体の類」、「3」は「部門」の「精神および行為」を表している。次の「1」は中項目の「言語」で最も細かい「分類項目」の「31」には以下のような内容が見られる。

1.3131 話・談話

話・談話・歓談・美談・奇談・情話・奇聞・茶話・無駄話・手切れ話・訓話・楽屋話・夜話・寝物語・謝辞・舞台挨拶・告辞・付言・講座・説教…

類基準については、一つの語が複数の分類項目に当てはまる場合がある。例えば、「進める」は「2.15作用」と「2.16時間」、「願う」は「2.36待遇」と「2.30心」という2分類に該当する。そこで本研究では、文脈から、より適切と考えられる項目を選んで当てはめた。

¹国会会議録は、速記録のなかでも整文が最も制限されているので、議員が発言した通りに、文中の主語-述語がねじれている文も多いので、分析不可能な用例があると考えられるが、丁寧体の研究資料としてコーパスが利用できるため調査資料とした。

²分類番号の構造、例えば「1.3131」、左から順番に、「1」は「類」の「体の類」を、「3」は「部門」の「精神および行為」を表しており、次の「1」は中項目の「言語」を表している。また、最も細かい「分類項目」の「31」は、情話・奇聞・茶話・無駄話・手切れ話のような「話・談話」に関する言葉に分類されることを表わしている。

目標語が掲載されていない場合、あるいは適当な意味項目に分類されていない複合語の場合について、前項と後項に分けて分析できる場合は、文脈からみて、より適当と考えられる項目を分類の対象とする。

さらに、形容詞や名詞が動詞化したものは、「相の類」「体の類」の項目番号と対応する「用の類」に分類する。ただし、「補助する」のような述語は、補助は「1.1040 本体・代理」に属しているが、「用の類」に「2.1040」という分類項目がないため、「補助」と「する」のいずれも参考にしたが、「する」の扱いと同じように、「2.34 行為」に属する。

本研究では、「1.31」のように、中項目である小数点2位まで取り上げて分類した。

4 「に對しまして(は)」の係り先となる述語の観察

BCCWJにおいて、基本的には用例がランダムに集められているので、本稿ではランダム用例から抽出サンプリングによってデータを集めた。BCCWJからダウンロードしたエクセルにある用例から、上から200例を採取した。そのうち、「に對しましての」3例、「に對しまして」12例を得たが、本稿は考察対象として扱わない。「に對しましては」の用例は50例、「に對しまして」は135例を得た。これら185例について観察・分析を行ったが、その詳細を述べる前に、採取・観察・分析にあたっての方針をいくつか述べておく。

①「に對しまして」には、格助詞的な用法と接続助詞的な用法とがあり、後者には「は」が付かないため、本稿のように「「は」の有無による違い」を問題にする場合には、後者は外して、前者だけを対象とする必要がある（また、後者は「係り先としてのV」を持たないという意味でも外すべきものである）。

念のため言い添えると、格助詞的な用法とは「……に對してV」と使う用法、接続助詞的な用法とは、「兄が社会的に大成功したのに對して、弟は失業してしまった」のように、2つの事態を対比的に繋げる用法である。ただし、形としては「Nに對して」であっても、「社会的に大成功した兄に對して、弟は失業してしまった」は接続助詞的な用法である。また、「これ（それ）に對して」は、「兄は社会的に大成功した。これ（それ）に對して、弟は失業してしまった」の「に對して」も接続助詞的な用法である（「これ（それ）に對して」全体で接続助詞的な用法といってもよい）。もっとも、「これは結構厄介な問題だ。これに對してどう取り組むべきか」のような場合は格助詞的な用法であり、こうしたチェックは必要である。

採取した「……に對しまして」135例中、接続助詞的な用法は26例見られた。これらは、採取はしたが、今回の分析対象からは外した。結果として「……に對しまして」のうち分析対象となるものは109例となった。「……に對しましては」は50例すべてがそのまま分析対象となる。

②「……に對しましては」の「は」は、主題性の「は」も対比性の「は」も区別せずに採取し、用例数を示す。

なお、三枝（2008）は、「複合助詞に「は」がつく場合は、ほとんど対比と解釈される」と述べているが、本稿で扱った「……に対しましては」の用例では、「は」は、次にあげるような主題性のものがほとんどであり、三枝の見方を支持しない結果となった。

- (8) いま対策がおくれたということで遺憾の意を表されたわけでありますけれども、対策がおくれたことで非常に被害者がふえた現状にかんがみ、本法施行に対しましてはその運用について格段の努力を払っていただいて、再びこのような被害者が出ないように十分注意をしていただきたいというふうに思います。（国会会議録 OM11_00005 18040）

③格助詞的な用法であるにもかかわらず、「……に対しまして(は)」の係り先が見出せない（流れてしまっている）ケースがある。それらについては、「係り先流れ」という一群として認定して、数を数える。

例えば、次例がその一例である。

- (9) 政府負担割合を上昇させようという御見解に対しまして、まさに我々もそれに努めておるわけでございますけれども、政府全体の財政困難の折なかなか急速にはまいらない。（国会会議録 OM21_00006 443270）

「見解に対して努める」は座りが悪く、繋がらない。恐らく「ご見解に対しまして、お答えしますと」のような気持ちで使っているのであろう。だが、「お答えしますと」が言語化されていない、というケースだと見られる。つまり「…に対しまして」の係り先がない（特定できない／明示されていない／係る先が流れてしまっている）と見るべきケースである。上で見たとおり、真仁田（2007）は、「……に対して」が、係り先が遠くにある場合は係り先との結びつきが緊密でなくても許されやすくなるという趣旨のことを述べ、本多（2017）は、丁寧形は普通形よりも遠くに係る傾向があることを指摘していたが、さらに、「……に対しまして(は)」では、このように係り先が流れてしまっているケースがあるわけである。このことを指摘し、こうしたケースを「係り先流れ」のケースと呼びたい。類例を掲げておく。

- (10) こういう方に対しましては、あるいは新しい建物に移られるときには従前借りておられた建物と同じスペースだけのものを借りるようなことにはならない、同じ価額で対応した建物の中に移られるということになりますと、どういたしましても居住面積としては小さくなるというのが一般例でございます。（国会会議録 OM11_00006 123560）
- (11) 十一月二十八日に予定されておりました動労千葉の違法ストに対しましては、それに伴います混乱その他ゲリラ事件、これらが予想されたものでありますから、事前の段階でそれぞれの警察が国鉄等の関係向きと協議をいたしております。（国会会議録 OM21_00005 860650）

このような「係り先流れ」が時折、見られることが、「……に対しまして(は)」の特徴だといえる。「……に対しまして(は)」の「係り先流れ」の中には、「……につきまして(は)」とする方が落ち着くというケースもあるが、本稿では、〈「……につきまして(は)」と言うべきところ

の誤り」という捉え方はせず、あくまでも、実際に用いられた「……に対しまして(は)」に目を向けて、その「係り先流れ」のケースとして認定する³。

以上の方針で、観察・分析を行った。対象は、すでに述べたように「……に対しまして」114⁴例、「……に対しましては」50例である。

4.1. 「に対しましては」「に対しまして」の係り先となる述語

本節は、『分類語彙表』をもとに、「に対しましては」「に対しまして」の係り先となる述語（連語⁵）をそれぞれ分類した。これらの係り先について、「……に対しまして」の場合と「……に対しましては」の場合に分けて、以下に整理して示す。

表1 「に対しましては」の後ろに来る動詞述語の出現実態

順	中項目	中項目出現頻度	中項目比率(%)	述語
1	2.30 心	15	30.00	用意する(3)・思う(2)・講じる(2)・考える(2)・反省する・表示する・判断する・わかる・認める・図る
2	2.15 作用	7	14.00	防ぐ・なる・追及をする・打つ・織り込まれてない・入る・できる
3	2.31 言語	3	6.00	説明する・伝える・通達する
4	2.34 行為	3	6.00	行う・とる・全力投球(する)
5	2.35 交わり	3	6.00	加入する(2)・協力する

³ 中には、以下のような例に比べて「誤り（非文）」という印象の強いものも見られる。

他方、中国との関係につきましては、この協定の署名に先立ちまして、千九百七十四年の一月の四日に大平当時外務大臣が姫鵬飛当時中国外交部長に対しまして、日本としてはこういう話を韓国との間で進めている。（国会会議録 0M15_00003 325680）

だが、こうしたものも区別せずに「係り先流れ」の例として数えておく。

⁴ 2形式とも係先が複数回出たものが見られる、本稿では、それらの係先を、一つ一つの動詞ごとに、それぞれ別に扱って、各項目に入れた。

⁵ ここで連語としたのは、いわゆる合成サ変動詞「〇〇する」の「〇〇」と「する」の間に「を」を介した「手当をする」「削減をする」のようなもの（「手当する」「削減する」と同義）。

6	2.36 待遇	3	6.00	指導する(2)・応援する
7	2.38 事業	3	6.00	手当をする・措置をとる・対処する
8	2.37 経済	2	4.00	与える・交付する
9	2.13 様相	1	2.00	払う
10	他(形容詞・名詞)	5	10.00	賛成である・質問である・なんだ・である・発出する ⁶
11	述語流れている	5	10.00	
		50	100.00	

まず、「に対しましては」の係り先に注目すると、「2.30 心」に属する述語が圧倒的に多く見られる。それに続いて「2.15 作用」も多く見られる。以下、使用度数が圧倒的に多く代表的な項目「2.30 心」に絞って見る。「2.15 作用」は、ここでは取り上げず、以下の4.2で「に対しまして」と合わせて論じる。

● 「2.30 心」に属する述語の観察

「に対しましては」の係り先としては、「2.30 心」に属する述語が圧倒的に多い。対象に向かう感情を表す語、話者側の思考・判断・心理的な動きに関係する語などである。該当例の中から1例を掲げる。

- (12) そして減収等がございました場合どうしてもそれを補てんいたさなければならぬ、かような団体に対しましては減収補てん債等を考えていかなければならぬ(後略) (国会会議録 OM11_00002 601490)

次に、「に対しまして」の係り先に注目する。

表2 「に対しまして」の後ろに来る動詞述語の出現実態

順	中項目	中項目出現頻度	中項目出現度数(%)	述語
1	2.34 行為	25	21.93	する(8)・行う(5)・とる(3)・やる(2)・補助する(2)・取り組む・果たす・なす・果たす・申し込み
2	2.15 作用	17	14.91	なる(2)・提出する(2)・増える・引き上げる・出揃う・追及する・周知徹底する・徹底させる・進出をす

⁶ 「発出する」は、『分類語彙表』に記載されていないため、「他」の類に入れた。

				る・できる・差し上げる・押しかける・出る・発見できる・増になる
3	2.36 待遇	15	13.16	お願いする(3)・要請する(2)・指導する(2)・指示する・助言する・規制する・課する・促す・摘発する・助成する・勧告する
4	2.12 存在	13	11.40	ある(9)・設ける(2)・作る・出された
5	2.31 言語	11	9.65	申し上げる(4)・通報する(2)・答弁をする・聞く・説明がなされている・質問する・参る
6	2.37 経済	10	8.77	与える(4)・支給する・供給する・出す・提供する・受け付ける・持たせる
7	2.30 心	8	7.02	取り上げる・調査する・算定する・祈りする・掛ける・安全にする・気がする・反省する
8	2.35 交わり	1	0.88	招待する
9	2.38 事業	1	0.88	開拓する
10	他(形容詞・名詞)	8	7.02	である(3)・増(2)・指示・高い・ない
11	述語流れている	5	4.39	
		114	100.00	

こちらは、「2.34 行為」に属する述語が最も多いことがわかった。それに続いて出現度数が高く見られるのは「2.15 作用」「2.36 待遇」「2.12 存在」「2.31 言語」であった(このうち「作用」は、「に對しまして」「に對しましては」ともに出現度数が高い)。以下、これらの語について見ていく(「作用」は最後に見る)。

● 「2.34 行為」に属する述語の観察

「に對しまして」の係り先となる述語としては、「2.34 行為」に属するものが最も多く見られる。「2.34 行為」に属する述語は、より具体的な行為を表す。

(13) (前略) これは高校在学中に満十八歳を迎えまして児童扶養手当等を失権する者に對しまして、高校卒業までの間、手当相当額の貸し付けを行おうとするものでございます。(国会会議録 OM11_00010 93820)

(14) 五十四年度から、こういう市町村以外に、関係権利者全員の参加する準備組合に對しまして事業計画作成費を補助することとさせていただいております。(国会会議録 OM11_00006 165220)

● 「2.36 待遇」に属する述語の観察

「に對しまして」の係り先としては、「2.36 待遇」に属する述語も多く出現している。具体的には、人及び人に準じるもの(会社、大学などの組織)を表す名詞に向かう助言、態度、提

示、指導、支配などであり、一方的かつ抽象的な活動が多く見られる。また、何らかの応答を期待する働きかけという発話機能も含まれる。

(15) ですから、都道府県知事に対しまして、市町村の指導よろしきを得ますように、今後も十分な助言をいたしてまいりたい、かように考えております。(国会会議録 OM11_00002 170710)

(16) 米国の議会では、各種の連邦機関に対しまして、主な機器の性能に関する基準を設定するよう存在に要請する法令を制定しました。(国会会議録 OM11_00012 139660)

● 「2.12 存在」に属する述語の観察

「2.12 存在」に属する述語は、「に対しまして」の係り先としては見られない。「2.12 存在」という項目は、ヒト/モノ等の具体的な存在、基準等の抽象的な存在の両方を含む。

(17) なお、両決議に対しまして、内閣を代表して、大来外務大臣から発言があります。(国会会議録 OM11_00001 16440)

(18) (前略) これは契約自由あるいは過失責任等の現在の民事法の原則に対しまして余りにも大きな例外をつくることになりますので(後略)(国会会議録 OM11_00005 509650)

(19) (前略) そういような土地の提供者その他に対しまして例外を設けてその例外によって特別の配分をしたいといような話が当時あったとは聞いておりません。(国会会議録 OM11_00011 262840)

なお、三枝(2008)では、複合助詞は多くの場合述語と呼応するが、後ろに「がある」といった存在文が来る場合には、主題に近い「は」が必要となることがあるという記述がある。だが、上の調査の結果、「に対しまして」の後ろにくる存在を表す「ある」という述語の出現頻度は比較的多く見られたのに対して、「に対しましては」の後ろにくる存在を表す「ある」という述語の出現頻度は0であった。つまり、「に対しまして」の方が「に対しましては」よりも、後ろに「2.12 存在」の述語を伴いやすいことが観察され、三枝の見方を支持しない結果となっている。

● 「2.31 言語」に属する述語の観察

「2.31 言語」に属する述語は、「に対しまして」の係り先の5位に現れる。「2.31 言語」は対象へ向かう態度表明の言語活動を表す。発話者が対象の具体的な内容をさまざまな観点から受け止め、表す言語活動を行なっていると言える。

(20) 高橋先生のこういうふうな御注意に対しまして厚くお礼を申し上げますと同時に、どうぞ今後ともいろいろと御指導いただきとうございます。(国会会議録 OM14_00001 904320)

(21) (前略) 東京では法眼当時外務事務次官から陳楚当時駐日大使に対しまして、また北京では橋本参事官から王曉雲アジア局副司長に対しまして、かねがね大平大臣から話をしておりました協定はいよいよあす署名になりますということを中国側に通報いたしました。(国会会議録 OM15_00003 328560)

● 「2.15 作用」に属する述語の観察

「2.15 作用」に属する述語は、「に対しましては」「に対しまして」いずれの係り先としても多数出現している。

(22) 私は、ただいま可決されました恩給法等の一部を改正する法律案に対しまして、各派共同提案に係る附帯決議案を提出いたします。(国会会議録 0M15_00002 297520)

(23) (前略) いわばそれまでの産油国以外の地域に対しましてきわめて積極的に石油探鉱のために進出をしていったわけでございます。(国会会議録 0M15_00003 960740)

(24) (前略) 直接に責任がある役員に対しましては厳しい責任の追及をしてまいりたい、このように考えております。(国会会議録 0M11_00004 318040)

4.2 「に対しましては」「に対しまして」の係り先となる述語の観察

係り先となっている個々の述語に注目すると、「に対しまして」の係り先には、「ある」「行う」「する」「言う」「願う」「与える」が多く見られる。このうち、「与える」は所有権、使用权が相手の方に移って行くことを表す動詞であり、それは「対する」の相手に向かって、あるいは、何かの対象に向かい合う特徴と一致していると考えられる。「願う」は「2.36 待遇」という項目に属しているが、「に対しまして」との相性のよさは「与える」などの場合と同様である。一方、「に対しましては」の係り先となる述語に、因果関係の出現数的に著しい述語はない。

【表1】【表2】から、2形式の係り先となる述語としては、「要請する・指導する・する」のような単独の語より、「手当をする・措置をとる・助言をする・規制をする」のように連語の方が出現数が多く見られる。また、今回の調査資料が「国会会議録」であるため、2形式の係り先となる述語に表れている語彙の傾向として、文法機能とは別次元で、係り先となる述語には「与える」のような文章語的な動詞や、「通報する」「追及する」「指導する」「制定する」「規制する」などのような漢語動詞が圧倒的に多く出現している。国会会議録では、国会・政治・官庁用語が多いという国会会議録ならではの特徴があるため、単独の語では、和語より漢語の方が出現しやすいと考えられる。

「に対しましては」は、ある対象だけに限定した叙述を行う場合に主題を提示するためか、係り先となる述語は、「に対しまして」と違い、「2.30 心」「2.15 作用」に属する述語のみが多数出現している。無論、「に対しましては」類は、「に対しまして」と同じように、言語活動、対象との関わりに関する動作が向けられる対象を主題として提示するのにも用いられる。一方、「に対しまして」は、動作が向けられる対象や目標を表す働き、対象物への直接的な態度を聞く質問に用いられる。また、応答者は態度を明確にして応答する機会が多いため、後ろにくる内容は、「に対しましては」のある対象だけに限定した叙述を行うより明確に、多様な領域(待遇・経済)の内容が表されやすく、行為者の対象物への態度が明確に示されている動詞に共起しやすいのではないかと考えられる。

5. まとめと今後の課題

以上、「に対しましては」「に対しまして」の意味的な使用の傾向を観察してきた。「に対しましては」の代表的なものは項目「2.30 心」、「に対しまして」の代表的なものは項目「2.34

行為」に含まれる語句であった。また、「に対しまして」の係り先となる述語には、「2.12 存在」を表す語句が多数出現しているのに対し、「に対しましては」の係り先となる述語には、出現していない。

以下に「に対しましては」「に対しまして」の係り先となる述語に多数出現している項目の観察をまとめる。それぞれの類についての記述は『分類語彙表』による。

「に対しましては」：

- 「2.30 心」話者側の思考・判断・心理的な動きに関係する語。

「に対しまして」：

- 「2.34 行為」主体から対象に働きかける具体的な行為を表す語。
- 「2.31 言語」主体から対象に向かう発せられる態度表明の言語活動を表す語。
- 「2.36 待遇」対象に向かう助言、提示、指導、支配など抽象的な活動を表す語。

両形式共通：

- 「2.15 作用」対象に対する態度、また反応を与える語。

また、今回取り上げた用例には、2形式の後ろに係る先が流れている用例がかなりの割合で見られた。こうした格助詞的な文成分でありながら係り先が流れている現象は変則的で、「に対しまして(は)」の特殊性を示している。本稿は、話し言葉の用例しか観察していないため、このような係り先が流れている現象は、書き言葉と比較する必要があると思われるが、これについては今後の課題としたい。

以上、「に対しまして」「に対しましては」2形式の係り先になる述語をそれぞれ抽出し、分類したうえで意味傾向を観察した。今後は本研究の結果を基にしてさらに用例を収集し、分析を進めていきたい。

【調査資料】

国立国語研究所 (2004) 「国立国語研究所資料集 14 分類語彙表-増補改訂版」大日本図書株式会社

短単位検索 (中納言 2.4) システム (国立国語研究所)

[HTTPS://CHUNAGON.NINJAL.AC.JP/BCCWJ-NT/SEARCH](https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search) (2021年8月最終アクセス)

【参考文献】

柏崎雅世 (2005) 「「について」と「に関して」－「に対して」を視野に入れながら－」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』31, pp. 1-16

グループ KANAME (編) (2007) 『複合助詞がこれでわかる』ひつじ書房

- 国立国語研究所（1985）『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 林淳子（2008）「後置詞「について」と格助辞「を」」『日本語学論集』4, 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室 pp. 131-142
- 坂井厚子（1992）「「について」「に対して」の意味・用法をめぐって」『信州大学教養部紀要』26, pp. 139-152
- 三枝令子（2008）「複合助詞につく「は」－「について」と「については」－」『一橋大学留学生センター紀要』11, pp. 3-15
- 佐藤尚子（1989）「現代日本語の後置詞の機能」『横浜国大言語研究』7, 横浜国立大学国語国文学会 pp.35-44
- 小高愛, 宮川和子, 遠藤真由美, 佐藤尚子, 白鳥智美（2001）「社会科教科書における後置詞について」『千葉大学留学生センター紀要』7, pp. 43-88
- 丁文静（2020）「複合格助詞丁寧体『につきまして』『に關しまして』『に對しまして』に関する考察—『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語話し言葉コーパス』を資料として—」『計量国語学会第六十四回大会予稿集』 pp. 1-6
- 本多由美子（2017）「複合格助詞における丁寧形の機能—『日本語話し言葉コーパス』を用いた分析—」『言語資源活用ワークショップ2017 発表論文集』 pp. 258-267
- 真仁田栄治（2007）「複合辞「～に対して」の連体修飾における被修飾語の意味傾向—『分類語彙表』を利用して—」『国際文化研究』11, 龍谷大学国際文化学会 pp. 69-79
- 森田良行・松木正恵（1989）『日本語表現文型—用例中心・複合辞の意味と用法—』アルク
- 横田淳子（2006）「「に対して」の意味と用法」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』32, pp. 19-31

—国学院大学大学院博士課程後期—